

裏面に掲載 ○永井隆平和賞受賞作品 ○障害者週間ポスター受賞作品

給食残量調査



大豆のパワー!
食残量調査
定期で行われる給食残量調査の結果を改善するための取り組み...

R6生徒会役員選挙
12月8日、令和6年度生徒会役員選挙が行われ、立候補した生徒が投票し、選挙結果が発表された。

次のステップ

12月5日、沖縄県庁で「障害者週間のポスター」表彰式が行われ、本校のポスターが表彰された。

ポスター受賞



当選は、二年南崎の原優李菜さん、一年金城和伸さんでした。



市長さんに報告
12月6日、全国生徒代表の市長室を訪ね、本校の活動について報告した。

市長さんに報告



した作品の成果です。高橋さんの優秀作品は、全国的に優賞品に選ばれました。

今年度開校33周年記念行事
12月13日、本校で開校33周年記念行事が行われ、多くの来賓が参加しました。

12月13日、本校で開校33周年記念行事が行われ、多くの来賓が参加しました。

三者面談



12月13日、本校で三者面談が行われ、先生、生徒、保護者の三者が話し合いました。



一緒に食べよう
高嶺中学校の生徒は、毎食、先生と一緒に食べています。

一緒に食べよう

クリスマス演芸大会
12月22日、本校でクリスマス演芸大会が行われ、生徒の創意工夫が披露されました。

自分を表現

Table with 2 columns: Date and Event. Includes dates from 9th to 30th and events like '始業式' and '3年総合テスト'.

1月行事予定
1月10日、3年総合テスト(国理英)
1月11日、3年総合テスト(社数)

1月行事予定



クリスマス演芸大会
12月22日、本校でクリスマス演芸大会が行われ、生徒の創意工夫が披露されました。

カラー版は後日本校ホームページにてご覧いただけます。

令和5年度
第33回島根県雲南市永井隆平和賞
入賞 佳作作品

声なき声の叫びから未来へ

糸満市立高嶺中学校
一年 大城果音

「遺骨？」「七十八年ぶりに見つかる？」
私は、沖縄タイムス五月十九日付一面の「陣
地壕、異例の女性遺骨」の記事を読みました。
遺骨が見つかった場所、そこは私達の学校校
区で照屋と国吉という地域でした。私の住ん
でいる地域で、陣地壕があり、九体の遺骨が
発見されたことに、私は強い衝撃を受けまし
た。遺骨は、約二十年にわたり沖縄に通い、
ボランティアで遺骨収集活動を行っている、
青森県の報道写真家の浜田哲二さん、執筆家
の律子さん夫婦によって発見されました。旧
日本軍が駐留した陣地壕で女性の骨が見つか
るのは異例で、四体からDNAが抽出され
たそうす。浜田さんはDNA鑑定の申請を行
い、一日も早く遺骨が家族の元へ帰れるよう、
願っているそうです。私は七十八年前に亡く
なった方の遺骨からDNAが抽出されたこと
に驚くと同時に、亡き人の声なき声を聞いた
思いになりました。一体は少女の遺骨で、そ
の遺骨近くには、赤い花柄の弁当箱があっ
たそうです。きつと少女の弁当箱だったにちが
いない。私はそう直感しました。七十八年
の間ずっと、暗黒の中、土に埋まっていた遺
骨。その遺骨は、浜田さん夫婦によって、今、
まぶしいほどの太陽の光を浴びたのです。そ
う考えると、私は重く辛い気持ちになると同
時に、「ずっと待っていたんだね。」と明る
い気持ちにもなりました。太陽の光がやっ
と差し込んだのですから。

す。ある日、壕の近くに爆弾が落ち、その破
片が壕まで飛んできて、その被害は大きく、
爆弾の破片で祖母の姉と妹たちは亡くなった
そうです。祖母の兄には破片が貫通したそう
です。祖母はその時に親とはぐれてしまい、
祖母は兄と二人で小屋に隠れていたそうで
す。祖母は小屋の外へ用を済ませるため出て
戻ってくる、アメリカ兵が鉄砲を構えてい
たため、祖母は怖くなり兄を置いて山へ逃げ
たそうです。当時の祖母は小学校二年生。一
人で昼夜さまよいながら逃げたことを考
えると、私は生きていた祖母が奇跡に思え、
自然と涙が出てきました。今、私が生きてい
ることも祖母がいるからこそ、命あつてのこ
とだということ。私は、命の尊さをずっしり
と感じた。七十八年前の遺骨が見つかった
中には一体の少女の遺骨もあり、きつと生き
ていたら、祖母と同じくらいの遺骨に太陽の
光が差し込んで、私は亡き人の声を感じず
はいられない。私の祖母は戦中、一人になっ
ても逃げ回り、幸いにも命はつなごう。祖
母は今まで沖縄戦について語らなかつたが、
私がどうしても聞きたいと話すと、祖母は重
い口を開き、私に話してくれたのです。祖母
は、きつと過去の辛い経験は話したくなかつ
たのだと思う。私は遺骨収集の話をする、
祖母は涙して手を合わせ、じつと目を閉じて
いた。私は祖母の語りを全身で感じ取るこ
とができ、自分自身を見つめ直すことにもつ
なりました。遺骨が発見されたことで、私は
私の住む地域のことを考え、七十八年前に戦
争があつた事実、地域の歴史をしっかりと学
んでいきたいと思ひました。収集された遺骨
は言葉で語ることはありません。しかし、私
達にメッセージを伝えてくれることは確か
です。戦争が少女の未来を奪ってしまったの
です。祖母は私にこう語ってくれました。「果
音、戦争は絶対にしてはいけない。命があ
れば何だってできる。これから生きていく時代
は、世界が平和であること。新しい未来を創
っていくことだよ。」と。私は事実を受け取
り、新しい未来を切り開いていくために、先人の
教えを胸に刻んで。

カラー版は後日本校ホームページにてご覧いただけます。

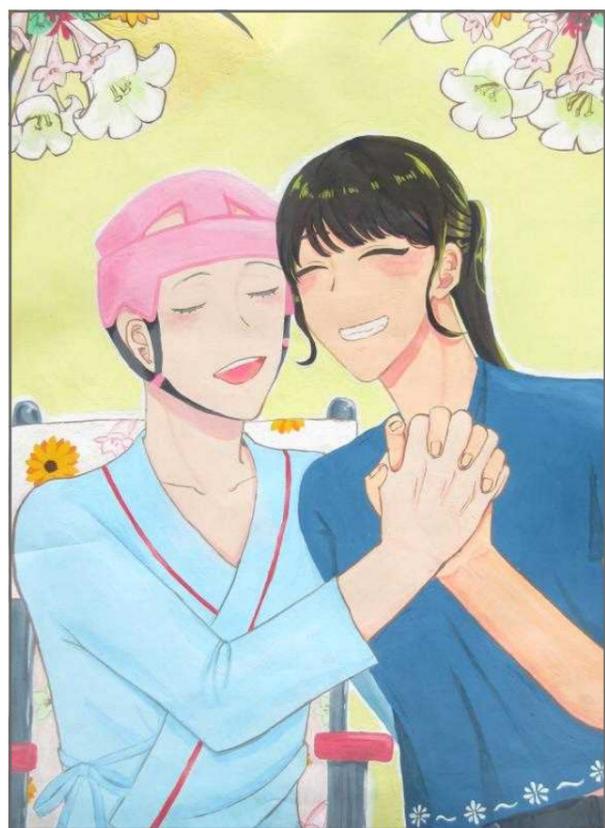
障害者週間ポスター優秀作品



優秀賞
「みんなちがって みんなおなじ」
2年 宮城星来



最優秀賞
「誰もが主役の明るい世界」
3年 高橋柚菜
※内閣府表彰「優秀賞」受賞



優秀賞
「親友」
3年 新垣空

カラー版は後日本校ホームページにてご覧いただけます。